

			担当者	概要
1	オリエンテーション	10分	主催者	●研修会の主旨等の説明
2	特別支援教育と作業療法の関わり～ 教育現場で作業療法士が行うこと～	60分	OT	●学校という特別な環境で作業療法士が活動するために必要な考え方について確認をします。 ●ここで学んだことを基に、プログラム3・4の特別支援教育や学校教育について学び、現場を理解して活動が出来ることの基礎とします。
3	日本の教育の制度と内容	90分	教育学系大学教員等	●作業療法士が学校現場で活動するために学校教育について必要な基礎的、基本的な事柄について学ぶ時間とします。 ●学校は教育の場であり、すべての子どもに対して平等に与えられた権利であること ●関連する法令等（教育基本法・学校教育法） ●教育課程、学習指導要領など、教員が遵守するべきことがあること ●学校の種類とその運営に関する事及び特別支援学校、特別支援学級、通級制度などの、制度と運用について ●自立活動のように、障害のある児童・生徒の教育として組まれていることについて。 ●合理的配慮について
4	特別支援教育の今	90分	都道府県教育委員会	作業療法士が学校現場で活動するために必要な、特別支援教育について、その概要と各地域における取組や展望とうについて学ぶ時間とします。 ●文部科学省が主導して行っている特別支援教育とはどういったことであるのかを、法的根拠や文科省の考え方を踏まえたうえで知っておくべきこと ●各都道府県における特別支援教育の実態と、教育委員会の取り組み等について ●その他、新しい情報、作業療法士との協働についてのご提案など
5	作業療法士が関与可能なモデル	20分	OT	●特別支援教育に関わる際の、さまざまな関わり方について、各地域の状況を調査した結果から紹介します。 ●協会が一つの関与モデルとしている「学校作業療法士」の紹介をすることで、協会として、学校への関わり方や役割をどのように考えているのかを理解していただき、各地域での活動の展開や充実に役立てていただきたい。
6	総合的なアセスメント	110分	OT	●学校の現場で行うアセスメントについて、見るべきポイントについて紹介をします。 対象児のアセスメントのみでなく、環境要素をどのようにとらえてアセスメントするか、対象児との関係でどのように解釈できるかを、一般的な視野に立って伝えます。 ●アセスメントに必要な情報収集のポイントについて紹介をします。
7	学校における作業療法士による支援	30分	OT	●アセスメントの結果得られた事を基に、作業療法プログラム（支援のために行うことすべてであり、個別プログラムを指しているわけではない）をどのように立てるのかを、出来るだけ具体的に、しかし、一般的な考え方を示しています。 ●この研修会で最初から示している図を基に、その順番に沿って話します。
8	事例を通じた学び(グループワーク)	90分	OT	●学校で良くある相談項目をどのように理解して支援をすればいいのかについて、事例を通して考えます。 ●先生の主訴が同じであっても、現象の捉え方によって支援内容が変わることや、環境によって変わることがあり、学校で起こっていることを冷静に柔軟にとらえる必要があることを考える時間とします。 ●スモールグループは、隣や前後の席の人と、小規模でいくつかの可能性について意見交換で行います。
9	まとめ(研修のまとめ、今後の展望)	20分	OT	●2日間の研修をさっと振り返る事と、今後に向けてどのような課題があるのか、どのように取り組めるのかを確認する時間とします。県独自の取り組みや県士会としての展望を含めることも可能です。

本研修会は「作業療法マニュアル65 特別支援教育と作業療法 ー学校を理解して支援するためにー」に沿った内容となっています。研修会の教科書として、このマニュアルが参考になりますので、受講者にお知らせしておくとも良いと思います。また、講師となる方は目を通していただくと良いと思います